

番号	2	令和6年度公共事業事後評価調書		担当課名	農地保全課
事業名	農業農村整備事業			事業主体	静岡県
箇所名	<small>こうど</small> 合戸			市町名	御前崎市

事業概要

事業の目的・必要性	本事業は、S35に県営海岸浸食対策事業で整備された海岸暗渠及びS46に町営畑総事業で整備された排水路の断面不足による湛水被害を解消するべく、排水路等の改修を行うものである。受益地内は、イチゴやトマトなどの高収益作物への施設栽培に転換したほ場が多く、湛水被害が地域農業に大きな影響を与えているため、早急な対策が必要である。					
受益面積	56.6 ha	採択年度	平成 22 年度	完了年度	当初 実績	平成 26 年度 平成 30 年度
事業内容	排水路工 : 1,118.2 m 海岸暗渠 : 135.2 m (排水樋門1箇所含む) 排水路 : 983 m					

事後評価の視点

(1) 施設の利用状況や被害軽減効果 等					
	事業費	事業期間	施設の利用状況や被害軽減効果 等	その他	
当初 (H22)	1,184 百万円	平成 22 年 ~ 平成 26 年	計画 (湛水被害軽減効果) 農地19.6ha⇒0ha 農道4,375m⇒0m 水路1,724m⇒0m 家屋家屋半壊 2戸⇒0戸	B/C	3.79
事後	1,020 百万円	平成 22 年 ~ 平成 30 年	実績R4.7.8豪雨 (湛水被害軽減効果) 被害なし	EIRR	-
差	▲ 164 百万円 14% 減	4年増			

■事業費

国道150号横断区間を既設利用に変更したことに伴う減額

■事業期間

台風等の影響により被災した海岸暗渠部の復旧に時間を要し工期を延長

(2) 事業の効果の発現状況

ア 農作物被害

事業実施前 農地湛水面積 19.6ha (1/10) → 事業完了後被害なし

イ 農業用施設の被害

事業実施前 農道 4,375m (1/10) → 事業完了後被害なし
排水路 1,724m (1/10)

ウ 一般被害

事業実施前 家屋半壊 2戸 → 事業完了後被害なし

	発生年月	時間雨量	流出量
計画	1/10確率	75mm/h	25.175m3/s
実績	R4.7.8	73mm/h	25.617m3/s

※流出量の実績は排水能力を示す

(3) 事業実施による環境の変化

ア 農業生産力の強化について

本事業における排水路の改修により湛水被害が解消すると共に、海岸樋門の改修により高潮等による塩害への速やかな対応が可能となったことから、農地の生産力が向上した。

イ 農村生活環境の変化について

本事業の実施により湛水被害が解消したことで、農業用ハウスの面積が、事業実施前（平成21年度）の8.42haから10.19ha（令和5年度）に増設された。（増加率：約21%、増加量：1.77ha）

(4) 事業を巡る社会経済情勢等の変化

ア 地域社会の動向

本地域においては、ほ場整備事業等の生産基盤整備が完了しており、本事業により排水対策が強化されたことにより、安定した農業経営が可能となったため、事業完了後、若手農家の参入により、荒廃農地が一部解消され、ネギ栽培が行われるようになり3haの農地集積が図られた。生育状況が良いことから、今後も経営規模の拡大が見込まれている。

イ 地域経済の動向

本地区の東側約2.5kmには、平成26年度にオープンした道の駅「風のマルシェ御前崎」があり、受益地内で生産された農作物の一部が、施設内の農産物直売所（令和6年4月19日にリニューアルオープン）で販売されており、事業実施前と比べて新たな販路ができた。

対 応 方 針 （案）

(1) 評価結果

事業効果は十分に発現しており、改善措置の必要なし

事業完成後、計画降雨と同程度の豪雨に対して被害の発生はなく営農や生活環境も向上していることから、事業効果は十分発揮されている。

(2) 今後の課題等

本事業では、海岸樋門の改修と併せて、地震発生時の緊急遮断装置や遠隔監視カメラを整備し、地震発生時における操作の正確性や迅速性、安全性の向上を図っているが、遠方地震による津波発生時に対応できないことから、遠隔制御装置の整備など更なる操作労力の負担軽減対策及び安全性の確保が必要である。

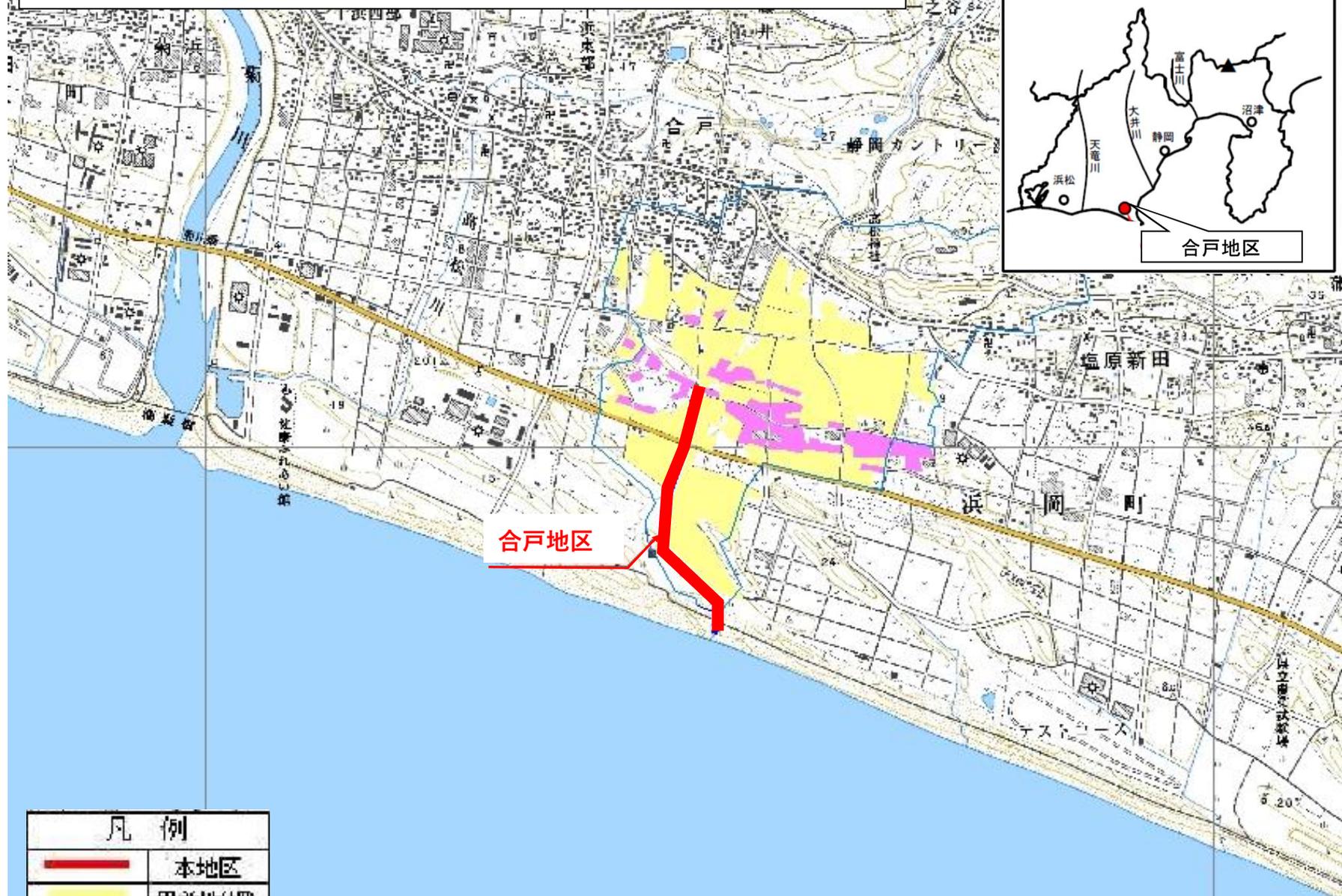
(3) 同種事業への反映等

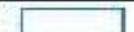
本県では、激甚化・頻発化する自然災害に対し、施設管理者等の操作労力の軽減や安全性の確保を図るため、遠隔による集中監視・制御等ができるよう農業用排水施設の機能強化を推進している。

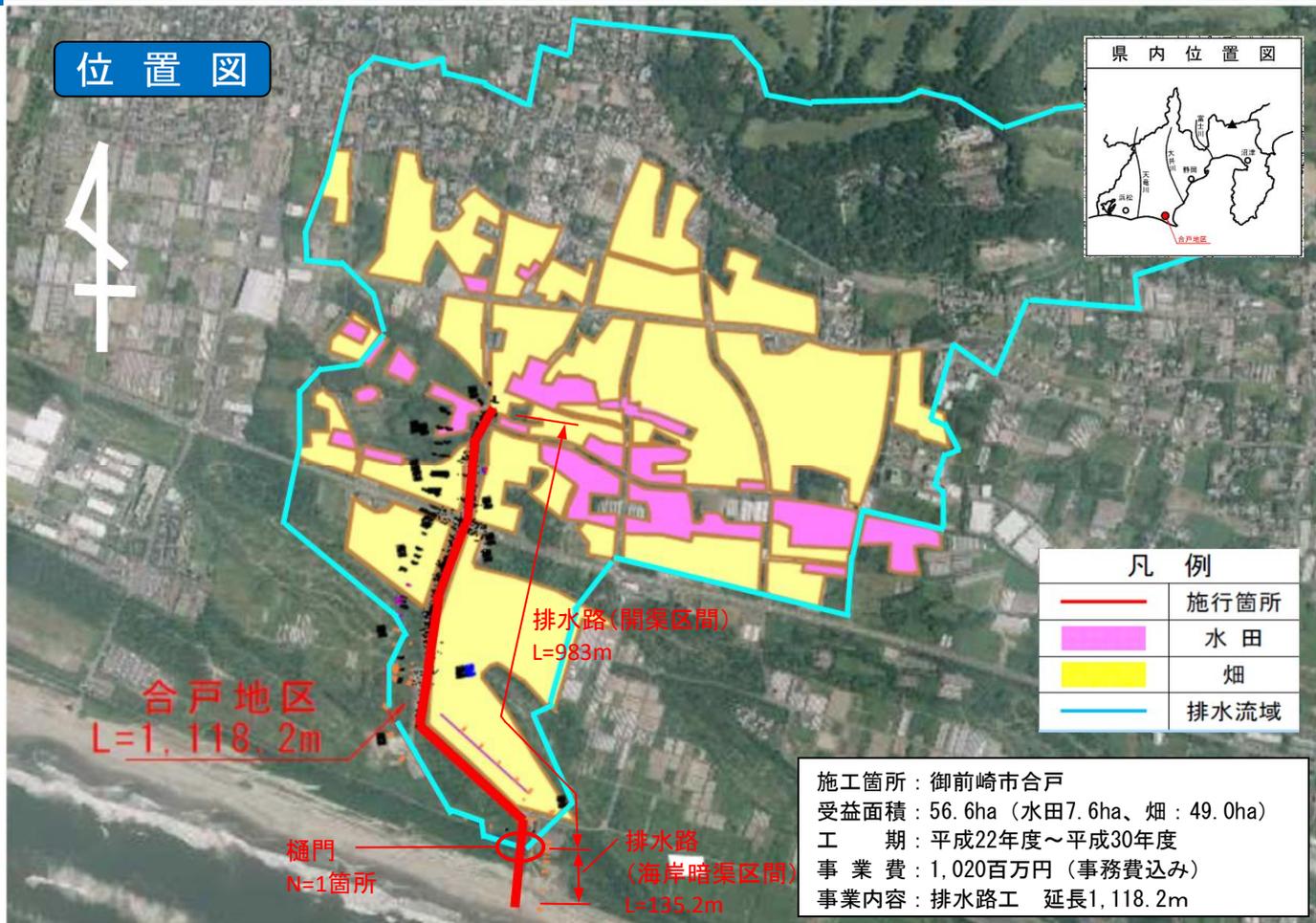
本事業で整備した緊急遮断装置や遠隔監視カメラによる操作労力の軽減や操作時の安全性の確保などの効果や運用に関する課題を検証し、今後の同種事業へ反映していく。

農業農村整備事業 合戸地区 位置図

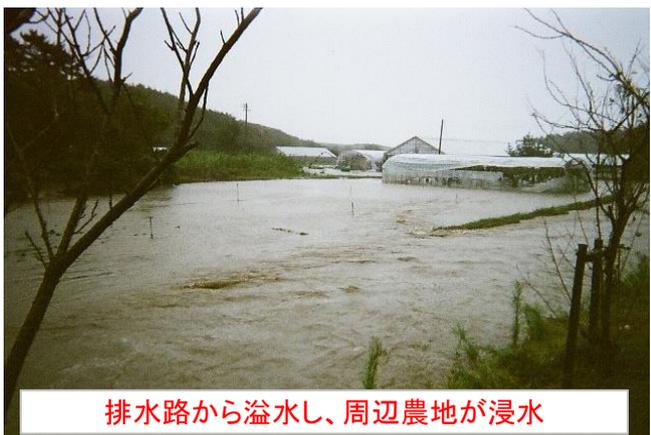
県内位置図



凡例	
	本地区
	受益地(畑)
	受益地(田)
	排水流域



実施前の湛水状況(H16.10.9台風22号) 時間雨量:89mm/h



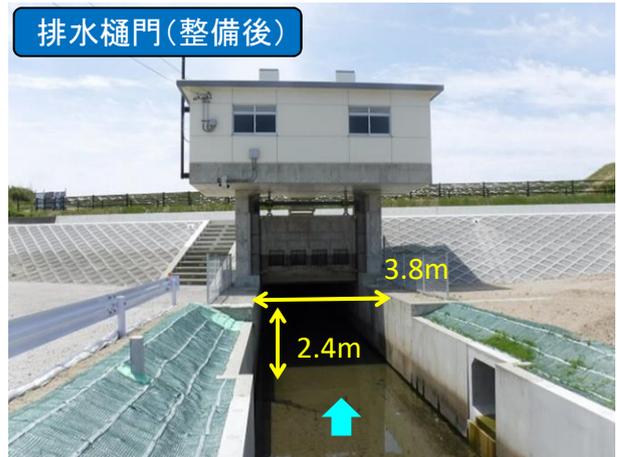
施設の状況

拡幅改修による排水能力の向上

排水樋門(整備前)



排水樋門(整備後)



排水路(整備前)

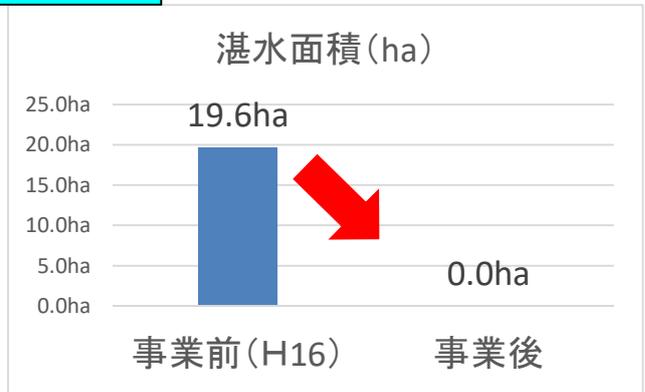


排水路(整備後)



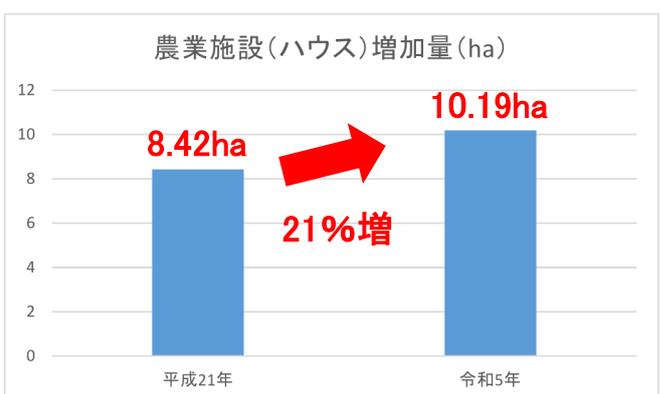
効果の発現状況

【事業完了後湛水被害無し】



大雨後の状況 (R4.7.8~10の集中豪雨後 最大時間雨量73mm) : 被害なし

【営農環境の変化: 湛水被害解消による農業用ハウスの増】

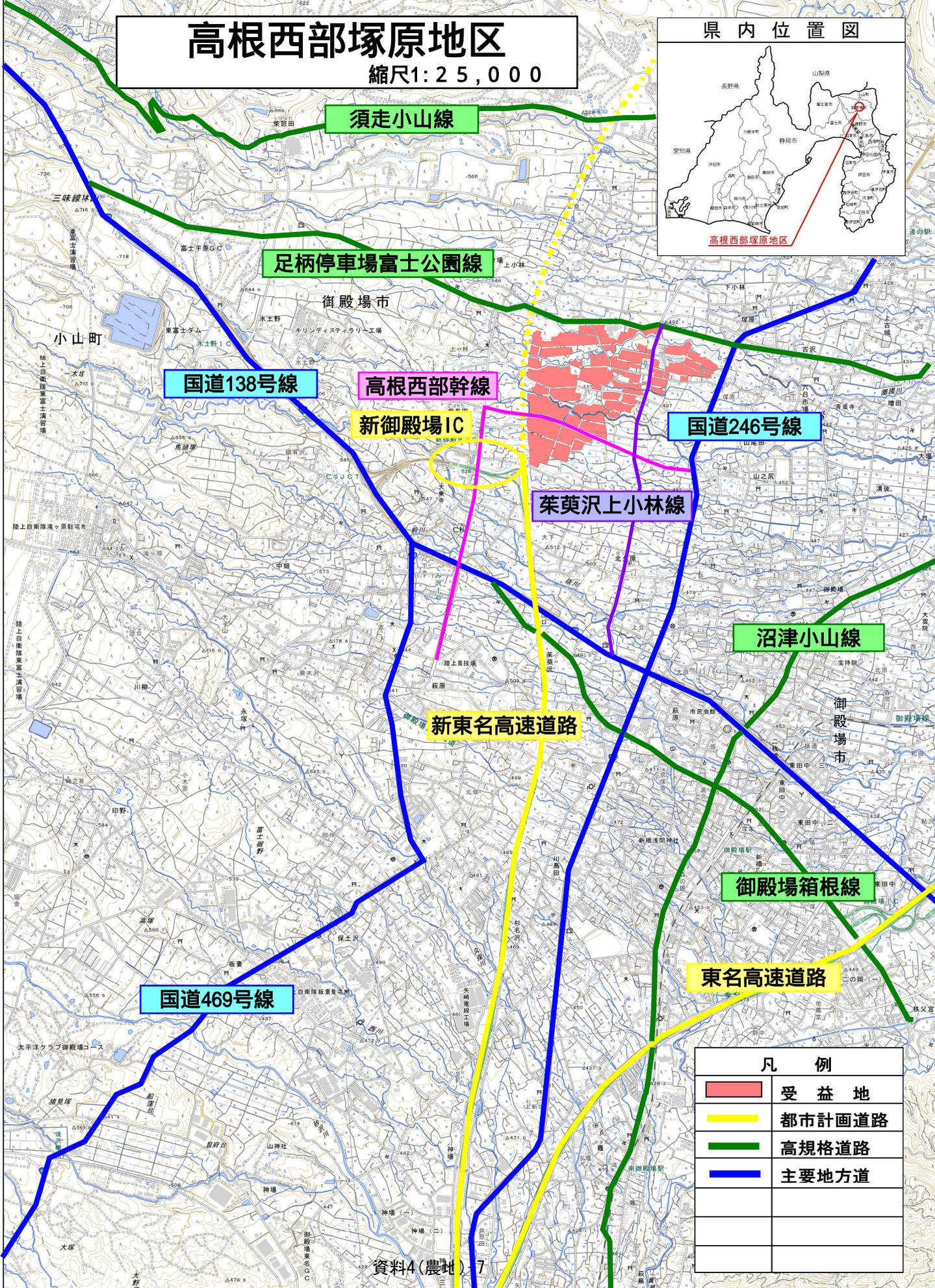


番号	3	令和6年度公共事業事後評価調査		担当課名	農地整備課
事業名	農業農村整備事業			事業主体	静岡県
箇所名	たかねせいぶつかばら 高根西部塚原			市町名	御殿場市
事業概要					
事業の目的・必要性	本地区の水田は、小区画・不整形で、現道は狭小で湾曲していたため、中型機械の乗り入れが困難であった。また、用排水用の水路は老朽化が進み、漏水による水不足、湿田化に悩んでいる状況であった。そこで、区画整理や農道、用排水路の整備を実施し、営農労力の節減と生産性の向上を図るとともに、分散農地の集積と大型機械化を推進し、農業経営の規模拡大を図ることを目的とする。				
受益面積	66.3 ha	採択年度	平成 21 年度	完了年度	当初 平成 26 年度 実績 平成 30 年度
事業内容	区画整理工 : 66.3 ha				
事後評価の視点					
(1) 施設の利用状況や被害軽減効果 等					
	事業費	事業期間	施設の利用状況や被害軽減効果 等		その他
当初 (H21)	1,323 百万円	平成 21 年 ~ 平成 26 年	水稻のha当たりの年間営農時間 699時間/ha・年 水稻粗収益 4,304千円/年 営農面積 802a		B/C 1.29 EIRR -
事後	1,726 百万円	平成 21 年 ~ 平成 30 年	水稻のha当たりの年間営農時間 430時間/ha・年 水稻粗収益 7,592千円/年 営農面積 1,415a		
差	403 百万円 30% 増	4年延長	水稻の営農時間の減 269時間/ha・年減(38%減) 水稻粗収益の増 3,288千円/年増(76%増) 営農面積の増 613a増(76%増)		
■事業費 土工数量増や、ストックヤードとほ場間の土の運搬量増、湧水の発生に伴う対策工の追加、既設構造物等の処分費等の増による増額 ■事業期間 事業量増及び、ほ場の区画形状や道水路計画の見直しに、不測の日数を要したため					
(2) 事業の効果の発現状況					
1) 水稻の粗収益増 ・担い手の粗収益 : 事業実施前 4,304千円/年 ⇒ 事業実施後 7,592千円/年(76%増) (代表な担い手の聞き取りによる平均値。当該地区および周辺地区を含む。) 2) 担い手の営農面積増 ・担い手の営農面積(所有、賃借、作業受委託) : 事業実施前 802a ⇒ 事業実施後 1,415a(76%増) (代表な担い手の聞き取りによる平均値。当該地区および周辺地区を含む。)					
(3) 事業実施による環境の変化					
1) 農業生産力の強化について ・大型農業機械の導入が可能となり、作業効率が向上した。 ・乾田化により汎用性が高まり、水掛菜やとうもろこし、さつまいも等が栽培され、多様な作物による営農が拡大。 ・作業効率の向上により賃借、作業受託等の面積が増加し、農地流動化が進んでいる。 2) 農村生活環境の変化について ・農地や道水路の維持管理を地域で担う多面的機能支払制度を活用し、地域一体となり保全管理を行っている。 ・ごてんばこしひかり栽培ほ場で「アイガモロボ」等、スマート農業技術実証実験を行うなど、先進的取組の実施。 ・大区画化により発生した大きな法面に、雑草の発生を抑える「センチピードグラス」の植栽試験を開始。					
(4) 事業を巡る社会経済情勢等の変化					
1) 地域社会の動向について ・基盤整備により地域の課題が解消され、事業実施前・事業完了時・現在と、集積面積が増加している。 ・優良農地が確保されたことで、新たな担い手への集積が期待される。 2) 地域経済の動向について ・新東名高速道路の新御殿場IC開設や、周辺の都市計画道路等の整備が進展した。 ・“ごてんばこしひかり”が高く評価され、高い買取価格で取引されている。					
対 応 方 針 (案)					
(1) 評価結果					
事業効果は十分に発現しており、改善措置の必要なし ・区画整理、農道、用排水路の整備により生産量、品質が安定するとともに、営農労力の節減が図られたため、地区内及び周辺地域の中心的経営体への集積が進み、経営規模が拡大した。					
(2) 今後の課題等					
・新たな担い手を育成するとともに、農地や道水路、周辺環境を保全していく必要がある。 ・担い手の営農管理の負担軽減や収益性の向上を図るため、水田ICT農業等の省力化技術の導入や、高収益作物の栽培を促進していくことが必要である。					
(3) 同種事業への反映等					
・本地域では、担い手への集積促進、地域による農地の維持管理保全、高収益作物の栽培等の事業効果が得られた。 ・北駿地域のほ場整備実施地区においても、水田の大区画化や汎用化を図りつつ、ICTを活用した営農管理の省力化を図るなど、効率的かつ効果的な整備を推進していく。					

高根西部塚原地区

縮尺1:25,000

県内位置図



国道138号線

高根西部幹線

国道246号線

新御殿場IC

茱萸沢上小林線

沼津小山線

新東名高速道路

御殿場箱根線

国道469号線

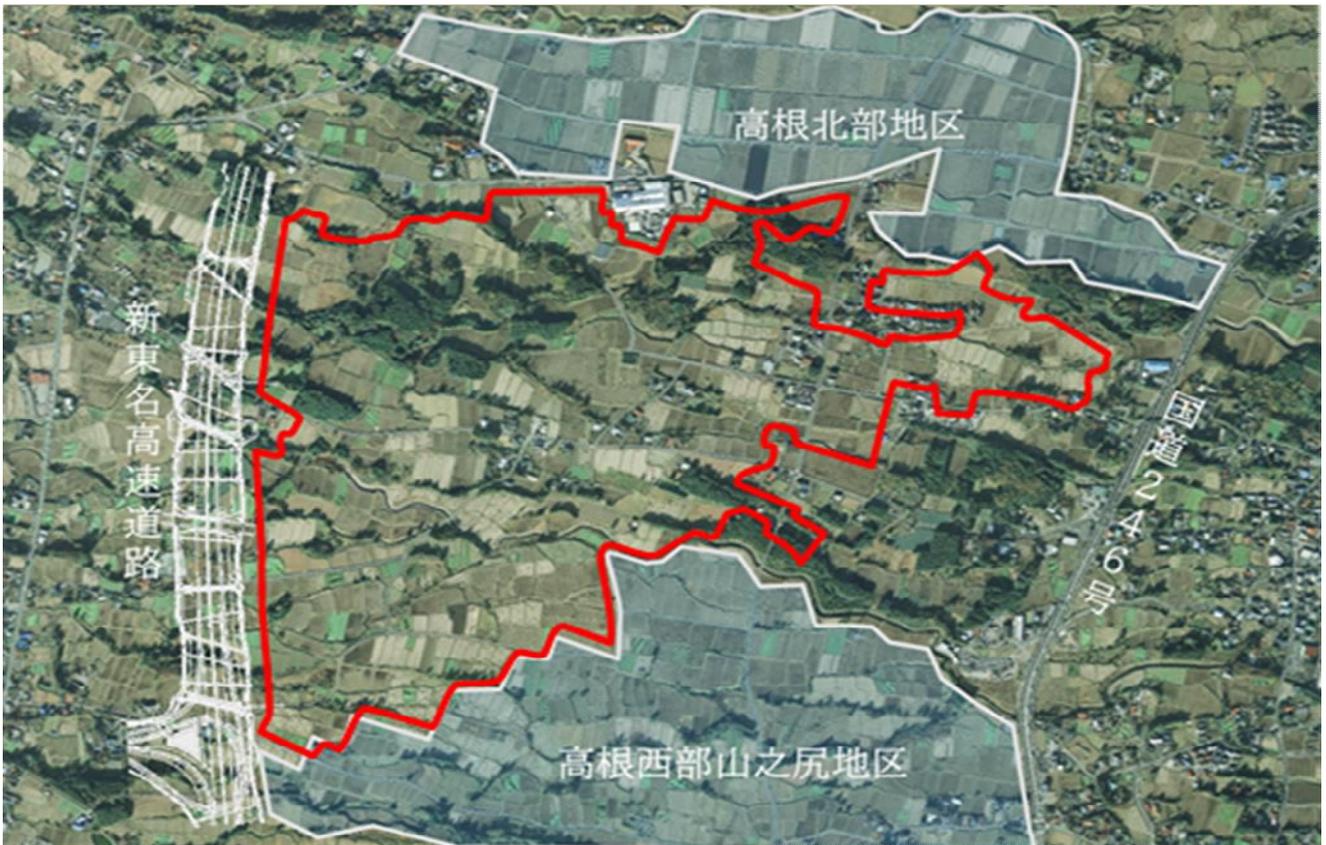
東名高速道路

凡例

	受益地
	都市計画道路
	高規格道路
	主要地方道

●事業効果の発現状況

<地区全景>
事業実施前



事業により水田が大区画、整形され
農地の集積が進みました

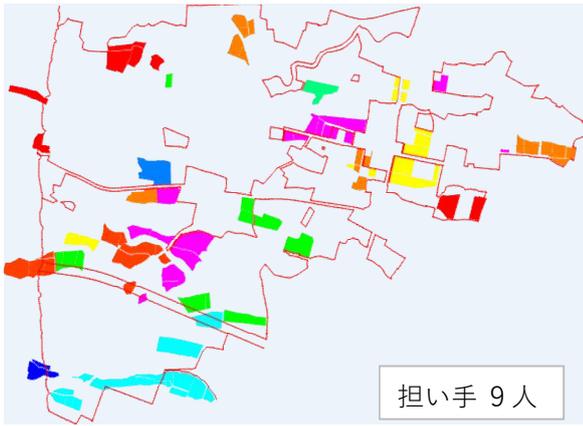
事業実施後



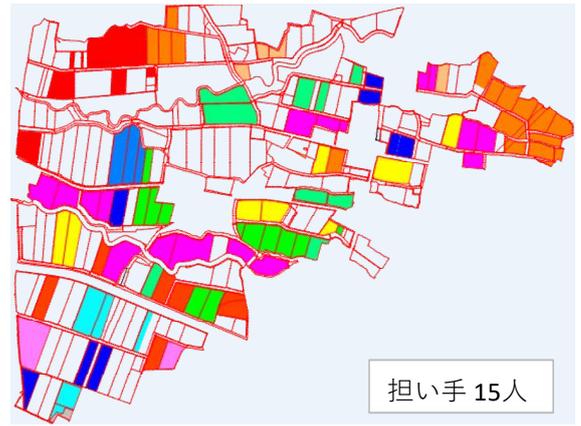
●事業効果の発現状況

<農地の集積状況>

事業実施前 (H21)



事業実施後 (R5)



区画整理農地(66.3ha)で、担い手農家への農地集積が加速
 【H21】 15.59ha(23.5%)→【H30】 29.02ha(43.7%)→【R5】 32.86ha (49.2%)

<農道工>

事業実施前



事業実施後

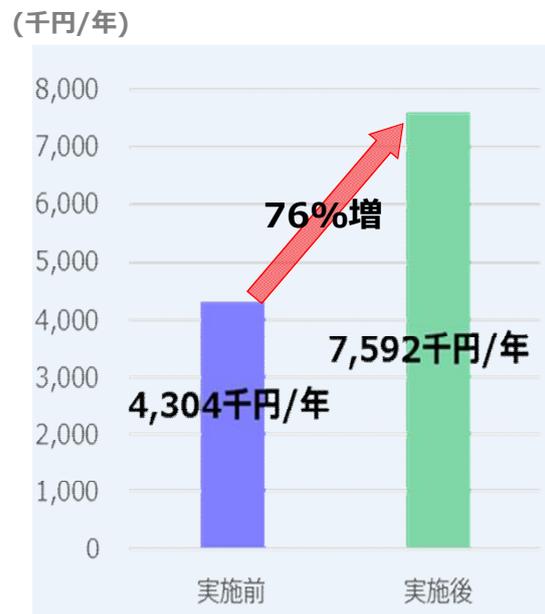
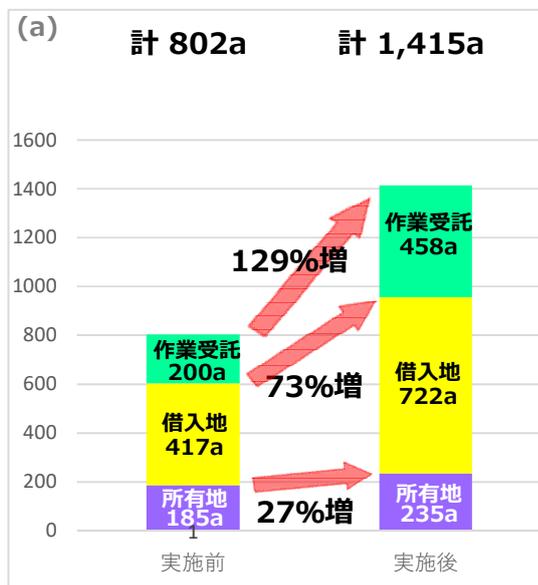


大型機械の通行や水田への進入が容易となり、作業効率が向上した

<営農状況>

作業効率向上による営農面積増加

農地集積による水稻の粗収益増加



※ 代表的な担い手の聞き取りによる平均値

※ 営農面積及び粗収益については、高根西部塚原地区および周辺地区を含む

●事業実施による環境の変化

多面的機能支払制度「塚原ほ場ネット」による維持管理・地域美化活動



農道の維持管理



排水路の維持管理

営農管理の負担を軽減する「アイガモロボ」及び「自動給水栓」の実証実験に着手



【アイガモロボ・自動給水栓】

- 田植え後の水田に浮かべると、取り付けられたスクリューで底面の泥を巻き上げながら自動で移動
- 泥の遮光効果などで雑草が生えるのを抑制し、除草用化学農薬の使用量を低減
- 自動で水田の水位を管理するセンサーやゲートを運用

草刈り労力の省力化を目指したセンチピードグラスの導入試験

センチピードグラス導入の効果

- 年間に草刈回数
5回→2回程度
- 10アール当たりの作業時間
9時間→3.6時間



●社会経済情勢等の変化

“ごてんばこしひかり”のブランド化



「お米日本ーコンテストinしずおか」で6年連続 計14回“県知事賞”を受賞

令和5年 JA買取額（概算金）

- コシヒカリ : 12,420円/俵
- きぬむすめ等 : 12,120円/俵
- ひとめぼれ等 : 11,220円/俵

